

令和4年度第1回兵庫県建設業育成魅力アップ協議会 議事録

日時：令和4年7月8日（金）14：00～16：00

場所：神戸市教育会館 404号室

【議事(1) 令和3年度 事業実施報告について】

- ・事務局より、令和3年度事業実施報告についての説明があり、その内容について承認がされた。

【議事(2) 令和4年度事業状況報告について】

- ・事務局より、令和4年度 事業取組状況についての報告があった。

【議事(3) 各団体からの資料説明】

・（一財）建設業振興基金の主な事業として、「①建設産業人材確保・育成推進協議会、（人材協）」、「②建設産業女性定着促進事業」、「③登録基幹技能者制度推進協議会」があるが、①③は各団体が会員で、建設業振興基金が事務局を担っており、②については国土交通省の委託事業を受託している形となっている。

・人材協では広報分科会を設置しており、工業高校を中心に戦略的広報展開を実施している。「建設産業ガイドブック」は全国の工業高校や人材協会員の団体に配布しているが、新入社員研修等にも使用されることが多く、1部100円で販売している。令和3年度は約3万部配布しており、非常に好評となっている。

・「作文コンクール」も例年実施しており、工業高校の学生等から作品を募集している。作文を通してより建設業に興味を持ってもらえたらと考えている。また社会人からも募集しており、高校生と合わせて表彰をしている。

・「学校キャラバン」では、以前まで関東の小中学校を訪問し、建設産業の魅力発信を行っていた。令和2年に新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされたが、令和3年度には九州地方整備局管内の福岡県八幡高等学校でビデオ等を用いながら開催した。今後は各地方整備局管内で持ち回りながら事業実施を検討している。（令和4年度は中国地方整備局管内で実施予定）

・プッシュ型広報として、「人材協定期便」の発送を年3回実施しているが、まったく反応がない。資料内容が多く、手に取りにくいかもしれないと感じているので、ポイントを押さえた内容にする等改善を図っていく。また「人材協チャンネル」もスマートフォンで閲覧できるようにしたり、様々な工事現場の動画を見られるようにする等取り組んでいる。

- ・令和4年度より、建設キャリアアップシステム（CCUS）の活用や若年建設人材の確保・育成に

関して、顕著な功績を上げた企業・団体に対して、「建設人材育成優良企業表彰」を実施している。受賞企業については、秋頃決定の予定。

- ・教員免許更新時に「実務施工体験研修」を実施していたが、免許更新制度廃止に伴い、当事業も終了の予定。令和5年度以降は、後継事業として建設業の先端技術等を学べる講習会の実施を検討している。

- ・「建設産業女性定着促進事業」について、国土交通省からの単年委託事業のため、長期的な課題であるにも関わらず、長期的な事業を実施できない状況である。

- ・「建設産業女性定着支援ネットワーク」事業の一環として、Web ページを開設しているが、女性技術者の紹介をする際にプライバシー保護等の問題が発生しているため、情報発信の方法について再考している。

- ・「登録基幹技能者制度」について、年間約 4000~5000 人の方が登録を行っている。国及び全国の自治体においても、登録基幹技能者を配置した工事に係る加点を行っており、令和2年度が約 1800 件だったものが、令和3年度は約 3000 件に増加している。

- ・現在建設キャリアアップシステム（CCUS）の登録者数が10月には100万人を達成する見込みだが、登録基幹技能者の約 8 万件のうちCCUSレベル4の登録者が約半数となっている。CCUSについて、具体的なメリットがあまりないのが問題点として挙がっているため、登録のメリットが実感できるよう、引き続き、国土交通省と協議・連携していく。

- ・現在ハローワークにおいて、CCUS加盟企業の案内等周知活動を行っている。

- ・三田建設技能研修センターで実施している「建設労働者育成支援事業」について、今年度が最終年度となっている。新型コロナ禍においても、参加者の就職率が70%を超えていたこともあり、事業として有用であったことから、厚生労働省において、後継事業等が実施されることとなれば、来年度以降も当財団が受託できるよう準備していく。

- ・今年度も社会人基礎研修を実施している。主に建設会社に就職した新入社員を対象に、ビジネスマナー等社会人としての基本の習得、建設産業に対する理解の促進、同年代同士の連帯感の醸成を目指した講習を2泊3日で実施した。

- ・三田一日体験セミナーについて、今年度は上郡高校を対象に実施した（上郡高校のホームページにて当日の動画がアップロードされている）。同様の事業を大阪府・奈良県の学校でも実施予定であり、参加者に建設業の魅力を知ってもらえる良い機会になっているので、今後も実施していきたい。

- ・令和3年度の現場見学会では、地元の住民約 2000 人、その内約 1400 人の小中学生が参加した。保護者も含めて建設現場について知ってもらうことは、将来就職等を検討する際に何かのきっかけに繋がる可能性があるため、地道ではあるが継続して実施していきたい。なお今年度もすでに加古川土木事務所、加東土木事務所の道路工事現場にて小学生を対象に実施している。

- ・年4回の新聞掲載による建設業の魅力発信事業について、女性の建設業入職促進に向けて、女性技術者へのインタビュー記事等を掲載予定にしている。

- ・従来の3K（きつい・汚い・危険）から新3K（給料・休暇・希望）へとイメージを変えていくために、賃金アップや完全週休2日制、社会基盤DX等の具体的アクションに取り組むべく、公共

工事等でそういった環境を広く整えていく必要がある。

- ・工業高校が不人気な理由として、高校生全体として進学率が高い中、工業高校卒業後は就職するというイメージがあるからだと思われる。また工業高校の教育方針として、社会に出て困らないよう挨拶等を厳しく指導している点も不人気の一因となっていると思われる。
- ・工業高校の魅力を伝えるために、兵庫工業高校では卒業生が働いている風景や社会人になってからの感想等を、受入企業に協力していただきながら収集し、学校ホームページに掲載する準備をしている。そのような形で工業高校に進学を考えている中学生等に学校の魅力を発信し、将来のイメージを持ってもらえればと考えている。

- ・「はじめての建築設備コース」について、今年度が最終年になっており、6名の方に応募いただいている。5日間で建築設備等に特化して講習を実施し、残りの日数で資格等を取得できるカリキュラムになっている。
- ・今年度で現在の事業は最終となっているが、来年度（一財）建設業振興基金が後継事業を実施されるのであれば、引続きお願いしたいと考えている。

- ・令和3年度のインターンシップでは、62名の工業高校生を35社の会員企業で受け入れた。今年度の予定としては、11校約90名の工業高校生を約50社の会員企業で受け入れる形で調整している。

- ・7月16日(土)に高校生ものづくりコンテスト兵庫県大会が実施予定で、電業協会からは2名審査員として派遣している。当大会を通じて身につけた知識・経験を今後の就職活動等に役立ててほしい。

- ・上部団体である（一財）日本電設工業協会の地区協議会が最近実施され、働き方改革や適正な工期の基準等を話し合った。議論の中では、新型コロナウイルスやウクライナ情勢等不安定な社会の影響で保護者が進学を希望している傾向がある、といった意見も挙がっており、保護者と学校側で進路の方向性がずれてきている状況を懸念している。

- ・全国で高卒就職者の離職率が4割程度であるのに対し、兵庫県は2割程度となっており、就職時のマッチングが上手くいっていると感じている。マッチングが上手くいっている要因としては、インターンシップ等で現場を体験し、その職種が自分に合っているかを判断する機会があるからだと考えている。

- ・令和2年度は就職希望者のうちインターンシップに参加したのが79.5%であったのに対し、令和3年度は56.9%の参加となった。新型コロナウイルスの影響で、企業の受入が困難であったり、生徒側も参加が困難であったため、厳しい状況となってしまった。今後も企業と生徒のマッチング率を上げるため、引き続きインターンシップ等を実施していただければと思っている。

・入職と並んで定着も重要。魅力発信も大事だが、発信する「魅力」自体をアップ（充実）させなければいけない。

・建設業はもともと魅力のある業界だが、やや不足している魅力、即ち、給与・休暇等の勤務条件を改善していかなければならない。そのためには、国・自治体に対して要望を行うとともに、業界・個々の企業も努力しなければならない。「魅力」自体のアップ（充実）が入職に、そして定着に繋がる。ICT、BIM/CIMの推進、安全の向上も入職促進・定着のために効果がある。

・建設業界に意欲と気概を持った若者の入職を希望する。受入側としては、そういった若者が充実した人生を送っていけるように、しっかりと応えていかなければいけない。

・入職した者が知識・技術、そして人としても成長していける環境を作っていくことが重要。

・能力開発課では、ものづくり体験館で中学生等へ職業意識を持ってもらったり、ものづくり大学校で建設業等の技能研修を行ったりしている。製造業においても人材不足が問題となっており、原因としては雇用の条件面等で他産業に競り負けているところがあると言われている。建設業に関わらず、全産業で技能研修や魅力発信を続けると同時に受入側の処遇の改善を引き続き実施していく必要があると感じている。

・最近の学生はワーク・ライフ・バランスを重視している傾向にあり、どの業種においてもワーク・ライフ・バランスが整備されていなければ、魅力が上手く伝わらないのではないかと感じる。

・兵庫県では「ひょうご仕事と生活センター」でワーク・ライフ・バランスに取り組む企業を支援している。神戸・尼崎・姫路に事務所を設置しているので、お困りの企業があれば、是非活用してほしい。

【閉会挨拶】

●土木部次長（会長）